

1. 9月全国行事

1) 防災の日	9月1日
2) 秋の交通安全運動	9月21日～9月30日
3) 全国労働衛生週間準備月間	9月1日～9月30日
4) 全国作業環境測定評価推進運動	9月1日～9月30日
5) 環境衛生週間	9月24日～10月1日
6) 健康増進普及月間	9月1日～9月30日
7) 心とからだの健康推進運動	9月1日～9月30日

2. 心とからだの健康づくり(この時期、紫外線障害に注意)

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. 他社の事故・災害事例から : 絶縁不良の電動工具で感電死亡

5. 今月のヒヤリハット

2. 心とからだの健康づくり(この時期、紫外線障害に注意)

紫外線は目に見えませんが、日焼けの原因になるだけでなく、シミやシワ、たるみなど、皮膚の老化やがんを起こす恐れがあります。このように紫外線が、肌に悪い影響を与えることは知られていますが、紫外線は目に対しても様々な病気の原因になります。

強い紫外線を目に浴びると、目は充血や角膜炎など、急性障害を起こします。職場では電気溶接のアークや殺菌灯による電眼炎等が問題です。また長年紫外線にさらされることで、白内障や結膜異常が引き起こされます。こうした慢性障害は、発症まで20年～30年かかることが多くダメージの実感がないため要注意です。紫外線は6月頃から9月頃に掛けてピークがあります。紫外線は薄曇りでも、晴天の約8割が地上に達していて反射・散乱するので、木陰や日陰、ビルの壁や路面でも浴びますが、特に春から秋の通勤時間帯の朝や夕方近くでは、太陽の角度から、目に入る紫外線は日中の2倍近くになるといわれています。

目に対する紫外線の対策についてはUVカット機能付きのメガネ又は薄いサングラス(濃い色のサングラスは瞳孔が開くので逆効果)とツバの広い帽子の併用が有効といえます。また皮膚については長袖の上着の着用や日焼け止めのクリームを、薬剤師などの専門家に聞いて使用することが大切です。

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋) 伊丹工場

①ショット機作業場にカーテン設置し

ショット粉塵の飛散防止を図っていた。



②暑さ対策としてグリーンカーテンの設置。



4. 他社の事故・災害事例から : 絶縁不良の電動工具で感電死亡

<災害のあらまし>

夏季、高温多湿の午後3時頃、事業場の工作室で、被災者(男性・43歳、経験15年)が、床に敷かれた鋼板の上で、100ボルト用ディスクグラインダーを用いて金属製品のサビ落しを行っていたところ、グラインダーのコードから感電して死亡したものです。

<災害の主な原因>

- ①コードの取り付け部付近が損傷しており、絶縁状態が不良だったこと。
- ②被災者はコードの損傷に気づかなかったこと。
- ③当日の気温は31℃、湿度80%でむし暑く、被災者は多量の汗をかいていたこと。
- ④導電性の高い鋼板の上で、絶縁不良の電動工具を取り扱っていたこと、など。

<同種災害の防止対策 例>

- ①鉄板の上など、導電性が高い箇所で電動工具等を使用する際は、電路の定格に適合し、感度が良好で、かつ、確実に作動する感電防止用漏電遮断装置を接続する。
- ②電動工具および移動配管等の点検及び整備は作業前に必ず実行するよう規定する。
- ③靴、手袋、服装等を絶縁効果に有効なものを使用する。
- ⑤夏季等の高温多湿の環境では、人体の皮膚の電気抵抗が、他の時期に比べて50分の1にも低下し低電圧でも危険なこと等について安全教育を実施する、など。

5. 今月のヒヤリハット: 各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

「惰性はダメ なれた作業も 慎重に」

事例	攪拌機使用中、攪拌シャフトにゴム手袋が巻き込まれた。
どこで	実験室で。
あらまし	試験で攪拌機を使用中、攪拌シャフトにゴム手袋が巻き込まれた。ただちに装置を停止したため難を逃れた。
原因	稼働中の回転部に、手を触れたこと。
教訓・対策	稼働中の回転部には絶対にふれないこと、また保護具をしっかりと着用すること。

6. その他

1)クールビズ期間中の節電について

今年も蒸し暑い季節が続いています。電力消費量が増加する夏季ですので、空調機器の抑制的な稼働など節電対策に協力願います。

「出来ることから即実践、習慣付けよう省エネ職場」 H26年環境保全最優秀作品

2)環境安全部でDVD「<改訂版>目のケガを防ごう」を購入しましたので、安全衛生に活用してください。